

すっかんぽ

1992年 1月号

タヌキ² (事情) part 2

まずは タヌキ クイズ と 3 題。

1. 「タヌキは ^{たぬき} 狸寝入り を するか」 (Yes. No.)
2. 「^{たぬき} 狸汁 は うまい か」 (Yes. No.)
3. 「タヌキの こう丸 は 本当に ハ 畳敷 か」 (Yes. No.)

(答え)

1. 「狸寝入り」とは、寝たふりをすること。タヌキは驚くと、ショックのあまり失神し、しばらくして正気に戻って逃げ出す習性がある。この習性にちなんでいるので 答えは Yes.
2. タヌキは雑食性なので肉はくさくて食べられたものではないらしい。狸汁にしたのは、ムジナと呼ばれていたアナグマの方で味噌仕立てで食べたらしい。もっとも、佐高の K 先生のように「タヌキ」を食べてしまう人もいる。答えは No.
3. タヌキの陰嚢はとてつもなく大きいという俗説がある。江戸時代に金の粒(約3.75g)もタヌキの皮で包み、上から金づちで叩くとハ畳敷に延びて金箔ができたという話からきているのだが、実際はそんなに大きくはない。答えは No. ところで、今回、我々はタヌキのこう丸を自分で手でさわる幸運(といえるかな)にめぐまれた。

1月30日 金曜日、^{はくせい} 足利の剥製師、本間さん から、佐高へ電話が入った。前からたのんでいた。交通事故死したタヌキの解剖とあわせて(ス/1エ)見せてくれるというのだ。解剖といっても剥製のために皮をはぐ作業であるが、プロの腕前と見せてもらえるチャンスはめったにない。大雪で休校となったので予定を早めてもらい、10:30 開始となった。

まず、あごの下から胸にかけて裂き、次に足の内側を切っていく。(図を参照) そして胸の切り口から腹にかけて裂いていくにつれ、タヌキのこう丸 and ペニスがあらわれてきた。こう丸は、ヒトのようにバラさが、っているわけではなく、体の中に入っている。ちょうど、ぎんなんくらいの大きさで動物の中では、小さい部類に入る。ペニスは、体に似合わず、10cm くらいあり、しかも骨があって固い。必要な時以外、は、体内にしまっておくらしい。

解剖をする本間さん
→
全国で数少ない東剝流認定剝製師
しかも女性



1991年
11月17日
交通事故死
したタヌキ
(冷凍しておいた)

★ 証言1 須藤 君(1-) 12.4. 7:00PM 葛生町 秋山

----(前略)----

僕のお母さんが中学校で懇談会があるというので、7時頃出かけた。行く途中、タヌキが車にひかれて死んでいるのを見たそうだが、帰りにそこを通ると信じられないようなことがあったというのだ。そのタヌキの死体を囲むようにしてタヌキが三匹いて、モソモソ動いていた。

よく見ると、どうやら食べていたらしいのだ。……また、車ですぐ横を通っても逃げなかったということにも僕は驚いた。

----(後略)----

★ 証言2 安藤 君(1-) 11月中旬 田沼町 三好〜野上

今年の11月の中旬には、1週間に2度も死んでいるタヌキを見た。しかし「死んでいるなあ」と思うだけで通り過ぎてしまった。

----(後略)----

★ 証言3 広瀬 君(1-) 夜中の12時頃 葛生町

(父親談)

仕事が終わって家に帰る途中、60cmくらいの黒い物体が、モソモソしているのを見て何かと思って車から降り近づいてみると、ちょこちょこ逃げてくると、こっちも見たので、タヌキだとわかったそうだ。

それからというものの、しょっちゅうタヌキをみるそうだ。……今度あぶらげなどを置いておいてタヌキをえづけて飼えたら飼いたいです。

★ 証言4 山村 君(1-) 佐野富士光様内 駐車場

- 。土管の中から出てくる
- 。夫婦でいる
- 。人を見ても逃げない
- 。近くの民家まで行ってエサを食べている
(インスタントラーメン、ソーセージ、ドッグフード)
- 。新聞にでた
- 。夕方6時ころ、朝7:30ころでる

★ 証言5 石澤 君(1-) 葛生町 豊代

○川×子先生が自分の家になんと秋山のスーパースターのたぬきが遊びに来ているという話をしてくれた。……(中略)……その写真には、数匹のたぬきが○川先生宅の玄関でご飯を食べていた。たぶんその数匹のたぬきは、親子ではないかと思えた。私の町内の正雲寺の山のどこかにもたぬきがいるだろう。今度探してみてもっとこまかく調査してみようと心にかけた。

★ 証言6 阿部 君(1-) 小野寺の石橋、羽田のさかい

ぼくたちの近くの山にゴルフ場が出来るようになってから山の動物がよくでてくるようになったと思います。……タヌキなどはよく山からおりてきて近くの畑の食物と食べてしまうこともありました。このような動物たちは山にいても食べ物がなく山からおりてきても人に殺されてしまい、かわいそうな気がします。

★ 証言7 大豆生田 先生 茂木町

(本人談より)

11月中旬、夜中の12時すぎ、車を飛ばしていると、対向車線の真中に、光る目が見えた。ネコかと思って通りすぎたが、もどってきてみると、傷ついたタヌキがくーんくーんとかういていた。……(中略)……まだ息のあるタヌキを助けるため獣医をさがし求め、ようやくさがしあてた午前4時、すでにタヌキは息が絶えていたという。

★ 証言8 友人 桐生市

一番多い時にはク匹のタヌキが食事に来ていたが去年の夏、裏山を宅地にしようと地主が雑木林を整地してしまった。それ以来、タヌキたちは、はたたり来なくなってしまった。

※ まだまだ証言は続くが、タヌキがここ数年目立ってきた背景には、山がすみにくくなり、里におりてきたため、車にはねられたり、目撃されたりすることが多くなったことがあるのではないかと、個体数が増えるのと、目立つのは別なのかもしれない。もう少し調査が必要である。(来月号へ続く)